

・全世界: 新型コロナウイルス流行状況

7月に入り新型コロナウイルスの感染者数は世界的に増加傾向にあります(WHO Corona virus disease 2022-7-20)。この原因はオミクロン株 BA.5 への置き換わりが進んだことによるものです。とくに日本を含む西太平洋地域で感染者数が急増しています。西ヨーロッパや中東でも7月上旬に感染者が増えましたが、中旬以降はピークに達している模様です。なお、新たなオミクロン株の派生型として BA.2.75 が今年 6 月にインドで報告され、その後、世界 15 か国(日本を含む)で確認されています。スパイク蛋白の変異状況からは、BA.5 よりも感染力がさらに強い可能性があり、WHO などでは監視を強めています。

・全世界: サル痘の流行状況

WHO は 7 月 23 日にサル痘の世界的な流行について公衆衛生上の緊急事態であることを宣言しました(WHO 22-7-23)。患者数は世界 75 か国で1万 6000 人にのぼっており、スペイン、ドイツ、米国、英国などで多くなっています。患者は男性間性交渉者(Men who have Sex with Men : MSM)が多く、感染者との性行為などによる濃厚接触で感染が拡大している模様です。

・全世界: 小児の急性肝炎

小児に発生している原因不明の急性肝炎の患者も増加しています。7月上旬までに患者数は世界35か国で 1000 人以上となり、22 人が死亡しました(WHO 22-7-12)。患者の発生は英国や米国で多くみられており、日本でも 60 人以上の可能性例が報告されています(厚生労働省 22-7-1)。原因は不明のままですが、米国での調査結果ではアデノウイルスの可能性が高いとのことです(New England Journal of Medicine 22-7-13)。

・南半球: 季節性インフルエンザの流行

南半球で拡大していた季節性インフルエンザの流行は次第に鎮静化しています(WHO Influenza 22-7-11)。オーストラリアやニュージーランドはピークを迎えており、南アフリカや南米のチリでは

ピークを越えた模様です。流行株としては、オーストラリアやチリなどで A(H3N2 型)、南アフリカで A(H1N1 型) が主に検出されています。今年の南半球では、秋の終わりの 5 月末から季節性インフルエンザの流行が始まり、本格的な冬の前に流行が収束しています。今年の北半球の冬も同様な流行状況が予想されます。

・アジア: 東南アジアでデング熱患者が増加

東南アジア各国でデング熱患者が例年より大幅に増加しています (WHO 西太平洋 22-7-14)。今年の累積患者数はマレーシアで 2 万 6000 人、フィリピンで 6 万 4000 人、シンガポールで 1 万 8000 人、ベトナムで 10 万人と、いずれも昨年の 2 倍前後にのぼっています。東南アジアはこれから雨期や暑期を迎えるため、患者数がさらに増加することが予想されます。

・アフリカ: ガーナでマールブルグ熱患者が発生

アフリカ西部のガーナでマールブルグ熱の患者が 2 人発生しました (WHO 22-7-17)。患者は 26 歳と 51 歳の男性で、両名とも死亡しています。マールブルグ熱はコウモリから感染するウイルス性出血熱です。もともとはアフリカ中部が流行地域ですが、2021 年にアフリカ西部のギニアで患者が初めて発生しました。今回のガーナの事例は同国で初めての患者発生になります。

・北米: 米国のニューヨーク州でポリオ患者が発生

米国・ニューヨーク州の Rockland でポリオ患者が発生しました (米国ニューヨーク州保健局 22-7-21)。患者は 20 歳男性で今年 6 月に両足の麻痺を発症し、ワクチン株由来の 2 型ポリオウイルスが検出されました。発症前に東欧のポーランドとハンガリーを旅行しており、そこで感染した可能性があります。米国では 2013 年以来のポリオ患者の発生になります。